

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 発行人 内藤 留幸
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし

過疎化が進む島根県で

出雲・松江、諸教会訪問記① ▶出雲のぞみ▶秋鹿▶松江古志原



秋鹿教会から周囲の稲田を見下ろす。山陰の右は、1キロ程で宍道湖、左には島根半島の山並が続く。

神話の国の兄弟姉妹たち

多くの牧師が「我が町は日本で最困難な伝道地だ」と言う。それぞれ根拠もあるだろう。戦い傷付いた体験を元に、実感を語ったのであり、嘘偽りではない。

しかし、過疎化率日本一の島根県こそが、数字的に見れば最も伝道不振の地であると、ほぼ断言できる。

人口七十四万の県下に日本基督教団の教会は九、他教派の教会も少ない。九教会の合計で、現任牧師員一三二名、礼拝出席一六〇名、東京には一教会でこれを上回る所が少なくない。一方で、大社教の信者は全国に四〇〇万人とも言われる。

因みに人口こそ一〇〇万と多いが、同じ九教会の富山県は、四五三名と三五名で、約倍。福井県は両者の間くらい。人口六七万のお隣り鳥取県は島根の倍

教団宣教委員会は、昨年九月十五、十六日、松江市と出雲市の五教会を訪問した。教団新報もこれに同行して、短い時間ではあったが、この地で働き生活する信者・伝道者の声を聞くことが出来た。祈りに覚え、訪ねていただければと願って、訪問記を掲載する。

四〇年を要した会堂建築

出雲のぞみ伝道所の開設は一九六三年、普通の民家の借家住まいを脱し、会堂を建築したのには二〇〇五年、四〇年以

奉仕と献身によって立てられ

秋鹿教会は、宍道湖の北側方面に十五キロ、湖岸に近い農漁村地帯にある。丘の上に建てられた、絵本に出て来るような小さな美しい会堂で憩談の時を持つた後、最寄りの教会員宅を訪ねた。下の写真をご覧いただければ細かい説明は無用だろう。加藤家は、当主が旧秋鹿村の村長や地場企業の社長を務めた土地の名家。この家から多くの信者・献身者が生まれた。秋鹿教会自体は小さくとも、その流れを汲む人々は全国に散らされ、各地で信仰生活を守っている。

秋鹿に限らず、農村部の教会は、一人の篤信家によって建てられ守られることが多かった。やもすれば何々家の教会になってしま



加藤家の玄関門、丘の上にあり城砦の風格ささ

う。その功罪という言い方がなされるがこれらの家の存在なしには、その地に教会が存在できなかったこともまた確かだ。かつて新卒の女性牧師がこの地に赴任し、二〇〇五年近くを過ごした。隣家まで数

百メートル、夜は真っ暗闇、車もなかった。月に二回ほど単線一両だけの電車に乗って松江に出、先輩牧師と共に学ぶことが唯一の楽しみだった。青春の全てを献げた」と、一〇〇年ほど前に偶然会った時、この牧師は涙ではない。懐かしい日々を追憶する涙だ。

で協力した教師の人数はもと多い。長い長い時間が過ぎた。長い長い間、祈りが献げられ続けた。そうでなければ、出雲の地では事は成就しない。教区からは謝儀や家賃の援助という支えがあり、山陰東分区分は出雲が決断した直後に、後援会を設けて協力した。

五〇年を経ての教団加入

松江市内に入り、松江古志原教会を訪ねた。戦後間もなく、教団で接手を受けた角井義雄師の開拓伝道によって生まれた。角井師は島根県の福祉関係の役人として勤務しながら伝道・牧会に当たった。既成教会の常識・通念に拘らない極めてユニークな教会形成を貫くために、五〇年単立を続けた。

一方、長く松江市内牧師会の会長として、牧師たちの交わりの中心であった。戦災孤児を引き取り、他人の借金の保証人となり莫大な借金を負った三度、桁外れの人情



教団加入と共に、新しい時代を歩みだした松江古志原教会



40年の祈りが叶えられた礼拝堂

ていた敷地が整備され、教会の体裁が整えられた。若い鎌野真師が赴任、新しい歩みが始まった。それこそが角井師の祈りであった。次号(松江教会、松江北堀教会)に続く。

荒野の

知名度や氏子の数では出雲大社が圧倒的だが、松江周辺には他にも歴史と物語に彩られた多くの神社や寺がある。縁結びについては出雲大社より歴史があると言われる八重垣、本殿が国宝の神魂、周囲の景色が美しいことで日御碕と美保、温泉もある熊野、他にもきりがなく、寺に閉じては小泉八雲の描く通り。何よりも驚かされるのは、戸数せいぜい数百の集落に、とてもない規模の寺社があること。山門には運慶作の金剛力士像を持ち、海辺から標高五〇〇mの山頂近くまで石段の参道が続くといううな。出雲の国では、未だに神社への信心が生きている。教会は、これに向かい合

い、時に戦わなければならない。赤い糸かどうかは知らないが、地域の姻戚・人間関係は複雑に入り組み、むしろ人ながら成っている。その地域社会と、時に共存しなければならぬ。だから、教会の信仰もまた生きている。そうではない、神話の国の物差しで測った時に、未だ歴史が浅くて、子ども並に体が小さいだけだ。

みなで生きる

JOCS

日本キリスト教海外医療協力会



タンザニア 清水範子ワーカーと村人たち

～キリスト教医療ミッションの現場から～③ 大江 浩 (JOCS 総主事)

タンザニア

幼子の命を守る

大地に根を張って

JOCSは二〇〇七年にタンザニア・タボラ大司教区へ清水範子ワーカーを派遣しました。タンザニアを取り巻く周辺諸国は紛争が絶えず、同国自体の貧しさにも関わらず（失業率は44%超）、難民庇護国となつています。一昨年度、六〇〇キロの道のりをひたすら走り、清水ワーカーの活動地を訪れました。車窓から見たバオバブの木は、大地にしっかりと根を張って生きていました。

「子どもがエイズによって孤児となる見込みである」（世界子供白書二〇〇八）。新しい命の誕生を守る、そしてその未来を支えることが清水ワーカー・タボラ大司教区の保健部門のスタッフのミッションです。生まれる前のHIVの母子感染を防ぐこと、児童期の大切なときにエイズによって親を失う子どもたちを少なくすることも大切な役割です。ただひたすら祈らざるを得ません。

「タボラの道の両端にはマンゴの木がきれいに並んでいる。リビングストーン博物館でその訳がわかりました。かつての奴隷売買時代に、キゴマからバガモヨ海岸へ東に九〇kmを奴隷が首に鎖をつけ二列に並んで歩いた道中に、マンゴを食べたその種を落としたので、道の両端にマンゴの木が並列していたのでした。…… Dr. David



タンザニア 母子保健活動(タボラ地区)

「Largestone がタボラに一年間住んで奴隷売買禁止の大変な努力をされたこと、医師としてまたクリスチャンとして多数の人々のために活動したこと、彼の偉大な活動に感銘しました。月例報告より。」

リビングストーン博物館には私も訪れました。開拓時代の宣教の歴史が刻まれていました。

清水ワーカーの働きはタンザニアの人々と共に生きることにあります。開拓時代の宣教の歴史が刻まれて

「サハラ以南のアフリカでは、熱を出した子どもの三分の一しか抗マラリア薬を使っていない。出生登録率そのものが著しく低い。タンザニアでは富裕層と貧困層との間で大きな格差があり、最も富裕な20%の層では子どもの25%が登録されているのに対し、最も貧しい20%の層ではわずか2%しか登録されていない（平均8%）。サハラ以南のアフリカだけで、HIVに感染した三〇〇万人のおとな（十五・四九歳）のうち、一三二〇万人（57%）が女性。二〇〇六年の段階で、HIVとともに生きる十五歳未満の子どもの数は三三〇万人に上る。サハラ以南のアフリカだけで、二〇一〇年までに約一五七〇万人

「サハラ以南のアフリカでは、熱を出した子どもの三分の一しか抗マラリア薬を使っていない。出生登録率そのものが著しく低い。タンザニアでは富裕層と貧困層との間で大きな格差があり、最も富裕な20%の層では子どもの25%が登録されているのに対し、最も貧しい20%の層ではわずか2%しか登録されていない（平均8%）。サハラ以南のアフリカだけで、HIVに感染した三〇〇万人のおとな（十五・四九歳）のうち、一三二〇万人（57%）が女性。二〇〇六年の段階で、HIVとともに生きる十五歳未満の子どもの数は三三〇万人に上る。サハラ以南のアフリカだけで、二〇一〇年までに約一五七〇万人

「サハラ以南のアフリカでは、熱を出した子どもの三分の一しか抗マラリア薬を使っていない。出生登録率そのものが著しく低い。タンザニアでは富裕層と貧困層との間で大きな格差があり、最も富裕な20%の層では子どもの25%が登録されているのに対し、最も貧しい20%の層ではわずか2%しか登録されていない（平均8%）。サハラ以南のアフリカだけで、HIVに感染した三〇〇万人のおとな（十五・四九歳）のうち、一三二〇万人（57%）が女性。二〇〇六年の段階で、HIVとともに生きる十五歳未満の子どもの数は三三〇万人に上る。サハラ以南のアフリカだけで、二〇一〇年までに約一五七〇万人

カンボジア

泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜ぶ

JOCSは、カンボジアで長く続けてきた母子保健活動を二〇〇六年十二月に終了し、諏訪恵子ワーカー

（看護師）は二〇〇八年二月から新しいミッションに従事しています。レナセルル女性と共に歩む会（RW）という日本のカトリック礼拝会のシスターたちが運営する女性のためのシェルターでの活動です。

「レナセルルとは、スペイン語で「生まれ変わる」という意味で、二〇〇九年一月現在、女性八人と同伴児九人（うち一歳未満児四人）の計十七人が入居しています。シェルターで暮らす女性たち（クライアント）は性的搾取やDV被害の犠牲者で、諏訪ワーカーの働きは入居者の安全、安心、健康的な日常生活を守り、再

び、社会生活に戻っていくよう支援することに努めます。そのために、彼女たちの身体面に対するサポートと共に傷つき凍てついた心を癒すことも大切な役割です。

「私たちは、諏訪ワーカーの働きを契機として、クライアントが生きてきた現実を学んでいます。カンボジアは長く悲惨な戦争が続きましたが、奪われたのは命だけではなく多くの人々の「未来」です。破壊しつくされた国に残されたのは深い心の傷と「貧困」という構造的な暴力です。和平調停が成立してから十五年たった今も、その暗闇の歴史

は封印されたままです。女性や子どもたちは搾取の対象であり続け、「声なき声」はかき消されてきました。一昨年、国際子ども権利センターのシンポジウムでカンボジアのソマリ・マムさん（文芸春秋、幼い娼婦だった私へ、著者）のお話を聴きました。ソマリ・マムさんは少数民族として生まれ（父母の消息は不明）、十四歳で兵士と結婚させられ、まもなく買春宿に売られました。拷問を受け、暴行される日々が八年続き、幸いフランス人と結婚。その後、女性救済組織を設立し、買春組織と闘っている女性です。彼女はサイバー（生存者）として、今は同じような境遇にある女性たちを支援する側にいます。しかし、マムさんは稀な例かもしれませ

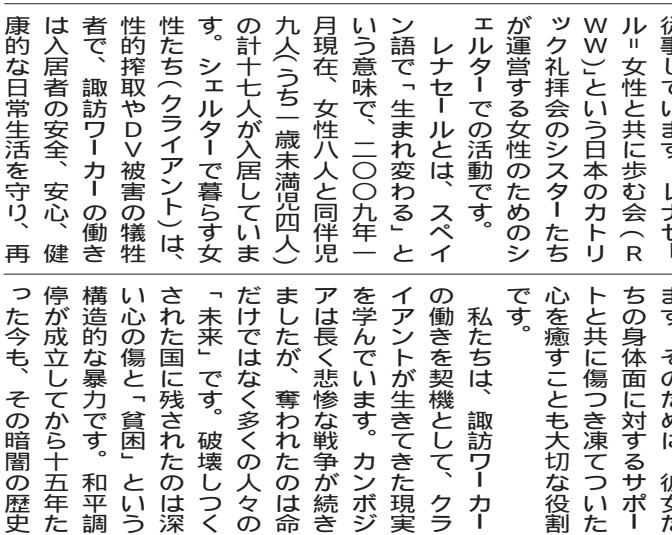
ん。多くの女性や子どもたちは「被害者のまま」生きるをえませんが、生きていたならば、カンボジアのみならず、世界各地の「多くのソマリ・マムさん」が日々暴力に晒され、虐げられつつ生きています。アジアの人身取引や児童売買に、日本が少なからず関わっていることは知られていません。残念ながら、RWは、カンボジアで貧しく弱くされた子どもたちや人々に関わってこられたシスターたちによって始まりました。RWは、カトリックとプロテスタントの協働の証です。心も体も未来も人生もたずたずに引き裂かれた女性たち、深く傷ついた人の話を聴く人も傷つきます。重荷を共に負うことでつれづれそうになります。絶望の淵にある女性たちはささやかな幸せ、温かさ、微かな光を求めています。諏訪ワーカーやシス

ターたちの「泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜ぶ」働きは、女性と子どもたちの命を支えています。大切な「地の塩」として、「学生のころからマザーテレサの活動に目を向けるようになった諏訪さん。卒業後、日本のハンセン病療養所で働き、インドを訪問して貧しい路上生活者の姿が心に留まった。……（カトリック新聞二〇〇七年六月三日号）。諏訪さんは、その後、カンボジアでの活動に従事します。私が行き詰まったときにカンボジアの人のそばにいて、無力な自分に力を与えるのは彼らだった。それに気づいた時、怖いもの知らずいろいろな所に足を運べるようになりました。貧しい人が実は強い。パワーを持っています。……（同新聞）。

諏訪ワーカーの働きを祈りつつ支えたいと思います。



カンボジア 諏訪恵子ワーカー



カンボジア 諏訪ワーカー レナセルルとスタッフたち

2009年春季教師検定試験を準備

第35総会期第9回教師検定委員会

第35総会期第9回教師検定委員会が、一月二六日(月)～二七日(火)、教団会議室において、委員七名全員が出席して行われた。



教師検定委員会だけは、総会期をまたいでもう一仕事

検査試験合格者(正教師五九名、補教師九名)が承認された。第36総会期第一回常務委員会において本総会期教師検定委員が選任された。なお、二〇〇九年春季教師検定試験は、慣例通り、第35総会期教師検定委員会であるが、委員が担当することが確認された。

委員会の位置づけ・性格を協議

第1回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会

第36総会期第一回委員会を一月二七日に開催。委員は、今総会期第一回常務委員会で常務委員から選任された小橋孝一、長山信夫、石橋秀雄、佃真人、難波幸矢の五名である。

「申し送り事項」について報告を受け、当委員会の働きについて確認協議した。特に在日大韓基督教教会との関係については、一九八四年二月に締結した「日本基督教団と在日大韓基督教教会との協約」の精神を受け、継続活動が当委員会に求められている。しかし他方で、日本基督教団側から報告を受け、委員会の働きについて確認協議した。特設委員会委員長、総幹事、担当幹事らが出席する在日大韓基督教教会との宣教協力委員会があり、またその下に双方教団(教会)の総幹事による実務会も組織されており、当委員会との関係が明瞭でない。当委員会は、この宣教協力委員会を補完する働きを荷うのか等、委員会の位置づけや性格について整理し、共通理解を持つ必要があるとの意見もあり、今後検討する事とした。



後列左から野村、長山、石橋、難波、丹波(職員) 前列左から小橋、佃の各委員

朝鮮人・日韓連帯特別委員会の活動内容を受け継ぐものである。ことを確認しつつ、在日大韓基督教教会との「宣教協力」についての学びを深め、同教会が取り組んでいる人権問題に学び、外登法問題と取り組む事、全国キリスト教連絡協議会を六月に予定されている全教団推進委員会に報告、七月の第36総会期第二回常務委員会の承認を得る事とした。

また、二〇〇九年度計画額の立案については、二〇〇八年度決算を参考に立案する作業を委員長および事務局長に付託。成案を決定同様に六月予定の全教団推進委員会に報告、七月の常務委員会の承認を得る事とした。

新委員長選任、組織新たに 隠退教師を支える運動第1回推進委員会

第36総会期第一回常務委員会で選任された七名の委員による第一回推進委員会が一月十五日(水)開催された。

冒頭に多田信一委員長から「年齢および健康上の理由で委員長の職を辞したい」との申し出があり、協議の後これを了承、後任として第36総会期委員長に大杉弘委員が選任された。この大杉・新委員長が議長席に着いて議事を進め、第36総会期の組織を次のとおり決定した。

これまででは諸般の事情で委員長が事務局長を兼務してきたが、この際両者を分離することが望ましいという意見で議長は一致、森啓一委員を事務局長に選任した。今後は事務局長が書記の職能をも引き継いで担当することになる。従来書記として永年にわたり委員長を補佐してきた滝川英子委員は退任することを確認した。

監事については、第35期総会期の監事であった川上郁夫、愛澤豊重の両氏に留任を求めるとした。教区推進委員については、第35総会期の推進委員全員に留任を求めると、留任承諾がなく空白が生じた場合は当該教区議長に推薦をお願いすることとした。

事務局報

教師異動
大宮 就担任田輝樹
山谷 就担任金 正謙
上星川 就担任牧野信次
城之橋 就担任牧野信次
辞(主)奥村眞敏

東海教区 創造の初め

北 紀吉

二〇〇九年を迎えた。新しい年に創造の初めを思う。神は言われた「光あれ」と、そして、神は「光と闇を分け」られた。

教区 コラム

から分離してこそ、ことは明確になる。何でも一緒、それは、混沌に帰ることに過ぎない。私共は、創造の神を神として仰ぐ。であれば、混沌からの分離、そこそそが神を信じてこそ、神の恵みが伝わる。あれもこれも一緒、それは混沌、存在を失う。伝わるものも、伝わらない。聖餐を分け、信仰を明確にする。そのことで伝道力が生まれる。信仰を明確にする、それが日本伝道150年を祝う今年の教団のなすべきことと思ふ。

(東海教区総会議長)

献身のとき

NOOSHINKI
KENSHIN
TOKI



神の御旨は不思議に満ち、「肉の思い」を超えている。
鈴木岩夫(筑紫教会牧師)

霧塵、脳幹梗塞に倒れたのです。当時、私は長老として、教会に關わっていました。優れた牧師の指導の下、百人二百人の礼拝が与えられると確信していた時のことでした。眞理牧師は、八年の闘病を経て天に召されました。

私はその頃、幼稚園で働いていたのですが、心で祈っていたことがあります。それは、どんなに忙しくとも、心が他のことに捕らわれないような状況にあっても、一日一回必ず聖書に触れるということ。例えば開いて読む余裕が無い時でも、触りたいと考えました。

「52年には、幼稚園を併設、教会も幼稚園も戦後を生き抜き、漸く形が整ってきたのですが、諸事情と更なる発展を願う、福岡市博多区から現在の大野城市へと移転いたしました。教会も幼稚園も、大きな転機をむしる危機を迎えました。特に、幼稚園は、その時点で通園していません。園児への責任があります。そのため、送迎バスを一台増やしました。その送迎バスの運転手として働くようになったのが、初代牧師の三男に当たります。工学部を出て以来勤務していました。自動車会社を退社して、幼稚園に就職いたしました。財政的な事を考慮すると、他の道はなかったのではないかと思います。

「家業を継ぐために牧師になった」という評が存在することは承知しています。しかし、それは事実とは違っています。眞理牧師が癒され筑紫教会牧師として【復活】すると確信して



筑紫教会礼拝堂、手前に畳の席も

第26回 キリスト教農村伝道推進協議会 研修会及び総会



ある鶏舎では、二羽が一つのゲージのなかで立つ場所さえなく、交互に背中に乗っていた。隣の鶏をつつかないようにくちばしを切り、歩けないので爪は伸び放題、ウインドレスといつて自然の風も光も入らない。抗生物質入りも入らない。抗生物質入りの餌。その不自然な鶏舎の中でウィルスが耐性を持つ力を強めていくことは恐ろしいこと。しかし、自然界で、ウィルスが鳥に寄生し、鳥は抵抗力をつける。鳥は抵抗する。これは本来的な姿なのだとお話を納め。

一月十九日(二〇日)に於いて秋田県鷹巣教会で、「子どもたちの未来の食を見つめて」と題して行われた。講師は安田節子さん(食政策センター・ヒジョン21)。グローバルで、食べ物もあらゆる国から輸入することになり、安全性や質が低下してきたことなど、わかりやすくお話ししていただいた。

「天地、機有り」という言葉から有機農業という言葉が生まれた。機とは大自然の運行の仕組み。神様の作られた自然の摂理に従わなければ、安全な食べ物には生産できないことを、再確認させられた。

ひととき

齊藤 實さん

「できる先輩」を目指して



1927年生まれ。下谷教会員。YMCA史学会理事長、賛育会顧問

十九年に終戦を迎えた。高等商船学校を辞めるにあたっての教官の面接で、「これからはあなた自身がしっかり生きていかねばならない」と教えられた。自分の中にも「俺がしっかりしなければ、日本はダメになる」との自負があった。しかし、今までの軍国主義に代わる、自分の中心に据えるものが見つからなかった。何を中心にすればいいのか、と思いながら手に取ったのが聖書だった。

150周年、言わずと知れた日本プロテスタント伝道開始150年である。150周年という数え方そのものがベッテルハイムによる琉球伝道を捨象し、沖縄を無視した暴挙として反対を唱える人たちがいることはよく知っている。

150周年

初週祈禱会をもて歩み始めた。五日の銀座教会を皮切りに、富士見町、小石川白山、高井戸、阿佐ヶ谷、東京山手の各教会で連日、150周年記念の信徒大会を持ち、四〇教会、二八一名が集い、盛り上がった。

(教団総会議長 山北宣久)